SUSAP 2024 SPRING

パシフィック大学プログラム

2024.2.20～3.16

参加者のプロフィールとアメリカでのおすすめ★

医学部医学科　５年
脇山　怜士　（リーダー）
★　Mt.Hood Meadows

経済学部経済学科　２年
松尾　亮祐
★オレゴン科学産業博物館

医学部医学科　３年
高田　向日葵
★Hopscotch

農学部生物科学科　２年
鐘ヶ江　葵
★Guidetti’s Marketplace

農学研究科　修士１年
豊留　凛
★Multnomah Falls

農学部生命機能科学科　２年
黒岩　夏帆
★Tillamook のアイス

教育学部初等教育主免専攻英語科　３年
川崎　優衣
★ＮＢＡ観戦

農学部生命機能科学科　２年
本城　由佳
★UC のポテト

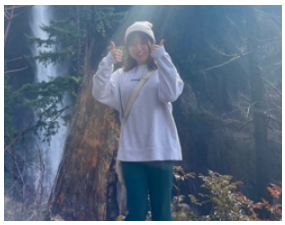
農学部生物科学科　２年
尾仲　美香
★Multnomah Falls

農学部食資源環境科学科　２年
近藤　希美
★Slow Rise Bakehouse

理工学部理工学科生命科学科　２年
古市　理彩
★ラズベリー

教育学部初等教育主免専攻英語科　２年
鹿江　陽菜
★Oregon Zoo

農学部生命機能科学科　２年
師子鹿　朱梨
Guidetti’s Marketplace のジェラート



農学部生物資源科学科　１年
久世　桜子
★Hopscotch

芸術地域デザイン学科　１年
藤田　和奏
★Powell’s Books

教育学部小中連携コース初等主面　１年
浦田　和弥
★Pac Thai

教育学部小中連携コース中等英語科　1年

干場　隆生

★Bunk sandwiches

教育学部初等主免英語科専攻　1年

木下　平和

★Pizza Schmizza

教育学部中等主面専攻数学科　1年

井上　元

★Telvet Coffe

プログラム概要

【期間】2024 年 2 月 20 日～3 月 16 日
【留学先】アメリカ オレゴン州
パシフィック大学
【内容】聴く・話す・書く・読むの 4 技能をバランスよく身につけるための英語研修プログラムです。キャンパス内にある寮での生活、文化交流イベントの参加を通して学生生活や教育制度、米国文化を学びます。パシフィック大学のユニークな教育の一つである、地域活動の機会が提供され、地元の NPO や小中学校などの教育施設を訪れ、ボランティア活動も行います。

オレゴン州について

オレゴン州は西海岸に位置し、州都はセイラムである。人口最多の都市はポートランドであり、全米で最も環境に優しい都市とされている。

パシフィック大学について

パシフィック大学はポートランドから車で約 40 分の Forest Grove という街にあります。1849 年に設立された私立大学で、佐賀大学の協定校です。主に芸術・科学・経済・教育・医療などの分野を学ぶことができます。自然あふれる環境の中で、大学生活を送ることができます。

パシフィック大学の建物

授業

月・水・金の 9:30~11:20 までは Speaking & Listening の授業、火・木の 9:30~12:20 までは Grammer の授業、13:00~15:50 までは Reading & Writing の授業が行われました。Speaking & Listening・Grammer の授業では moodle といったウェブサイトを用いた課題もありました。移民に関する質問を現地の人にインタビューする、といった課題もありました。 Speaking & Listening の授業ではプレゼンテーションの制作の課題や 2 回ほど筆記試験もありました。これらの授業は SUSAP に参加した私たち佐賀大学生と桜美林大学の学生と共に参加しました。

滞在先

今回の SUSAP では、パシフィック大学の「Clark Hall」という短期留学生用の学生寮に滞在させて頂きました。2 階を男子、3 階を女子が利用し、SUSAP 参加メンバーと 2 人、もしくは 1 人ずつの部屋割りでした。コミュニティスペースもあり、共有の電気ポット・電子レンジ・冷蔵庫が置かれ、この場所で朝食をとる人もいました。部屋は机、ベッド、チェスト、クローゼットがそれぞれ準備されていました。パシフィック大学内では最も築年数が長い寮でしたが、玄関はオートロック式でセキュリティが高く、寮に入るには専用のカードーキーをかざす必要がありました。寮の地下には共同の洗濯機や乾燥機もありました。

バディ

私たちにはバディが充てられ、日本にいる時から連絡をとりあうことができまし

た。Japanese Club に所属する人や、日本のアニメ、漫画に興味がある人たちなど様々な人がいました。課題のインタビューに答えてくれたり、一緒に食事をしたりポートランドへ遊びに行くなど、良い関係を築けたとともに、楽しい時間を過ごすことができました。

ボランティア活動

私たちには 2 回、ボランティアをさせて頂けました。1 つめは大学から 20 分ほど歩いたところにある教会で、寄付された服の仕分けを行いました。2 つめは Forest Grove のごみ拾いを行いました。

交通手段

私たちは主にバスと MAX という路面電車を利用しました。乗車の際にはチケットを購入するかクレジットカード決済をすることで利用できます。どちらもチケットは共通で 2 時間半乗り放題で$2.8、1 日乗り放題で$5.6 という価格でした。また、配車アプリ「Uber」を使ってタクシーを利用することもありました。

路面電車 MAX

食事

今回私たちの参加したプログラムには昼食・夕食分の大学内の食堂の利用代金が組み込まれていたため、大学の食堂で食事をすることが多かったです。朝食は前日の夜に食堂から持ち帰ってきたパンやカップケーキを食べたり、スーパーで買った果物、日本から持ってきた日本食を食べることもありました。また、たまに Forest Grove にある飲食店で食事をしたり、スイーツを食べに行くこともありました。バディと一緒に食べることもあり、食事中も英語に触れることが多くありました。

市場・物価

オレゴン州は消費税がかからない州でした。一時期は 153 円台までになった円安の関係で、物価は高い傾向にありました。日本の商品を販売するスーパーがありましたが、日本で購入する価格の 2 倍ほど

のものもありました。

まとめ

今回の約 1 ヵ月の留学の中で、私たちは貴重な経験をすることができました。授業を通した語学力の向上だけではなく、実際に生活をすることで異なる文化、生活様式を実感できました。食事や買い物といった娯楽的行動からも学べることが多かったです。今回の留学の経験を次にどう生かすかを考えていくことが大切だと思います。

「初めてのアメリカ留学を通して」

脇山怜士

今回の留学で私が学んだことを大きく３つに分けて、実際の経験とともに述べていきます。

まず１つ目は、「積極性の大切さ」です。これは、今回の留学を通して私が最も強く感じたことです。私が今回留学に行くことを決めた理由の１つが、英語を話さざるを得ない環境に身をおきたいというものでした。出発前は、アメリカに行けば嫌でも英語を話すことになるだろうと、少し甘く考えていた部分がありました。いざ行ってみるとただ待っているだけでは英語を話すチャンスは訪れず、自分でアクションを起こして話しかける必要がありました。初対面の人に、慣れない英語で話しかけるのはとても勇気がいることでした。私は英語を実際に話した経験がなく、コミュニケーションが取れるのかどうかも不安でした。しかし、勇気を出して話しかけると空港や駅、レストランなどのスタッフさん、学校の先生、学生など全員が優しく答えてくれました。拙い英語ながらにこれを何度も繰り返して行くうちに少しずつ自信がついてきて、最終的には現地の友達をたくさん作ることができました。バディーとは、２人でボウリングをしたり、動物園に行ったり、ポートランドにハンバーガーを食べに行ったりすることもできました。バディーと２人きりで会話するのも最初はとても勇気が必要でしたが、積極的にコミュニケーションを取ろうとする姿勢を持つことでお互いに意思疎通することができ、仲良くなることができました。いつか日本に来たいと言っていたので、日本で会えるのが楽しみです。また今回の留学では、パシフィック大学に来ている他の大学の日本人の留学生とも仲良くなることができました。みんな色々な夢や目標、バックグラウンドを持って留学に来ていて、今後医師になる上でたくさんの人と関わり、話をすることができたのは非常に大切な経験でした。彼らとはスノーボードに行ったり、NBA を見に行ったり、現地の学生も交えて買い物に行ったりバスケットボールをしたりと一緒に色々な経験をすることができました。他にも、日曜日には教会に行ったり、大学内での Japan Club というイベントに参加したりなど、本当に多くのアメリカの方と英語で話す機会があり、非常に楽しい生活を送ることができました。総じて今回の留学では勇気を出して積極的にアクションを起こすべき場面が非常に多く、その時はとても緊張しましたが、今では積極的に動くことができて本当によかったなと思っています。

２つ目は、「英語の難しさ」です。中でも、私がアメリカで一番難しいと感じたのはリスニングです。ネイティブスピーカーの英語は想像以上に早く、すべて完璧に聞き取ることは到底できませんでした。バディーや現地の学生と話すときも、何度も聞き返したり、聞き取れる単語からなんとか理解したりしてコミュニケーションをとっていました。リスニングはとにかく耳を慣らすしかないと思うので、これからも継続して練習していこうと思います。また現地の人と話す中で、言いたいことが言えないという場面が何度もあり、悔しい思いをしました。単語が思いつかなかったり、日本語をうまく英語に変えられなかったりし

て、自分の思い通りに伝えられないことがあり、これが今の私の英語学習へのモチベーションにもつながっています。このように自分のできないことを知るという経験ができたことも、留学に行って良かった点の1つです。

3つ目は、「アメリカの国民性」です。今回の留学を通して私はアメリカの人は総じて優しいなと感じました。ほぼ全員がドアを開けて待ってくれたり、話すときも私が話そうとしているのを待って、意味を汲み取ろうとしてくれたりと、優しさを感じる場面が多々ありました。大学内に限らず、お店の店員さんや電車の警備員の方など、関わる人のほとんどがこちらが話そうとするのをゆっくり待ってくれて、拙い英語でも理解しようとしてくれました。また、アメリカでの生活全体を通して”Thank you”を言ったり聞いたりする回数がとても多い印象を受けました。日常的に”Thank you”が飛び交っていて、私はつい”Sorry”を多用してしまっていましたが、現地の人に倣って意識して”Thank you”をたくさん使うようにしました。日本には無いとても良い文化だなと思いました。他にも、アメリカの方は会話を始めるハードルが日本と比べてとても低いと感じました。初対面でも気軽に話しかけてくれたり、こちらが話しかけても嫌な顔ひとつせずに親切に会話してくれたりという場面が多くありました。日本でもそうなるといいなと思いました。

以上のように、実際に現地に行ってみないと分からないことを知り、学び、体験することができ、本当にSUSAPに参加して良かったです。今回私は団長として留学に行きましたが、19人全員がそれぞれ貴重な経験をして、大きなトラブルも無く無事帰ってくることができて良かったと思います。

バディーと動物園

みんなでバスケ

「アメリカ研修を終えて」

高田向日葵

4週間という短い研修でしたが、今振り返ると多くのことを得られた充実した日々でした。私がこの研修を最初に志望した理由は、英会話スキルを身につけるためで

す。将来海外で医師として働きたいという夢を叶えるため、アメリカで生の英語に触れることができたのはとても刺激的でした。短い研修期間だったので格段に英会話スキルが上がったというわけではありませんが、英語を話すことへの恐怖や正しい文法を使わなければいけないという考え方を払拭することができたのが今回の成果だと思います。また、今回共に研修に行った仲間と英語の勉強について多くの情報を得ることができ、帰国後の英会話学習のモチベーションになりました。

4週間の研修の中で、アイデンティティについて、そして価値観の違いについて何度も考える機会がありました。それらの機会によって、私の考え方は留学前後で大きく変わったと思います。まずはアイデンティティについてですが、現地の学生や現地に暮らす人々と関わる中で、アメリカの人々はそれぞれが自分の信念に従って生きていることに気づきました。人種や宗教の違う人々が入り混じる国だからこそ、それぞれが信じる道をゆくという考え方がとても新鮮でした。日本にいると、横並びに同じであることの方が良しとされる学生生活を送ってきたために、個を出すことへの恐怖がありましたが、今回の研修を経て、自分を持ち、時に人と違う選択をしたとしても、その先に自分の望む未来があるのなら、自信を持って進んでいきたいと感じました。

次に、価値観の違いについてです。アメリカ滞在中、日曜日に教会を訪れ現地に暮らす日本人の方と話す機会がありました。そこで同世代のキリスト教徒の方に出会い、その方からキリスト教の教えについてや考え方、価値観について様々な意見を交わしました。渡航前から、医学と宗教の関わりについて知りたいと感じていたため、彼に生死について、医療行為について、クリスチャンとしての意見を聞きました。私が死ぬことは怖いと思うかと聞くと、彼は「全く怖くない」と即答しました。キリスト教の教えでは全ての出来事は神が与えてくれたものだからだそうです。宗教を信仰し、生きる上での道標としている同世代の人に会うのは日本ではなかなかないことなので、考え方や価値観の違いを目の当たりにできとても良い機会でした。今、緩和ケアなどでカトリック教徒になる人も少なくないというのも彼の話を聞いて腑に落ちる部分がありました。海外で医師になるにあたって、生死について自分と異なる価値観を持っている人が少なからずいるということを忘れないようにしたいと思いました。

今回の研修では、自身の英会話スキルはもちろん、新しい価値観や自分の考え方を取り入れる事で内面も成長することができました。また、勉強やバイトに追われる生活から離れ日本と全く異なる環境に身を置く事で、一度ゆっくりと自分を見つめなす良い機会となりました。時に困難に直面することもありましたが、現地の学生や仲間に支えられ、無事に研修を終えることができました。特に、共にアメリカに渡った佐賀大学の仲間とは、寮で語り合ったり色々な所へ旅をしたり、かけがえのない時間を過ごしました。学年も学部もバラバラの個性豊かなメンバーで、毎日がとても楽しかったです。素晴らしい出会いに感謝しています。この研修で得た全ての経験を糧にこれからも研鑽を積んでいきたいと思います。

Buddy のイーライが地元に連れて行ってくれました。

「SUSAP 参加を通して感じたこと」

豊留凜

私が海外や英語に興味を持ち、本格的に勉強し始めたのは学部 2 年の時、ちょうどコロナ禍のことでした。実際に留学することが難しい状況のまま卒業し、大学院に進学することになったのですが、学部時代に留学の機会が得られなかったことがずっと心残りでした。SUSAP のことは以前から知っていたので、参加するならこのプログラムにしようということは決めていたものの、いざ大学院に進学すると授業や研究、さらにはその合間を縫って就職活動もおこなわなければならず、日々やることをこなしていくので精一杯の毎日が待っていました。このような状況下で、本当にこの時期に海外に行って大丈夫だろうか、自分にすべてをこなす能力があるのだろうか、と研修に参加するにあたっては迷いもありました。実際に現地でもオンラインで企業の面接を受ける必要があったので、現地に行く前はもちろんですが、現地についてからもスケジュールのマネジメントなどは大変でした。しかしプログラムを終えた今、思い切って参加して本当に良かったと感じています。

実際に現地で過ごしてみて、感じたことや考えたことはたくさんあるのですが、この報告書にすべて書くと入りきらないので、中でも強く印象に残ったことを書きたいと思います。

はじめに、自分の英語力やコミュニケーション能力に関する気づきについて書きたいと思います。まず、プログラムに参加する前の時点での英語力ですが、学部 3 年次から現在まで、オンライン英会話で 1 回 25 分のマンツーマンの授業を少なくとも週に 4 回は受講するという生活を続けていたこともあり、ある程度英語でのコミュニケーションは取ることができ、テーマによっては簡単なディスカッションも可能であるという状況でした。また、研究室の留学生とも英語でコミュニケーションをとっていたので、英語を話すことに関する恐怖心は渡航前からすでに全くありませんでした。ただ、オンライン英会話で会話ができるとは言っても相手は講師であり、日本企業のオンライン英会話講師として働いている以上はそれなりに日本文化に対する理解もあるということ、また講師として生徒の話を聞くことが仕事であるため、多少こちらの話の意味がわからなかったとしてもくみ取ろうとしてくれることから、いざ実際に英語圏で生活するとなった時に自分の英語力がどの程度通用するものなのか、自分ではなかなかわからない部分がありました。そのため、実際に現地で生活していく中で、これまで自分が学んできたことと、実際に必要とされる能力にどの程度のギャップがあるのか非常に興味がありました。現地での生活を経験してみてまず感じたのが、とにかくネイティブスピーカーの話すスピードが速いこと

でした。もともと日本にいるときから音声教材は 1.5 倍速で聞くようにしてはいたのですが、それでも現地の人の話すスピードは速いと感じました。それに加えて、話す人によってアクセントが違うので聞き取りにも苦労しました。ここで意識したのが、聞き取れないときは話の途中でもさえぎって聞き返すことです。確かに相手に何度も同じことを言わせるのは申し訳ないという気持ちもあったのですが、わからないふりをするよりはましなはず、と割り切りました。実際に聞き返したことをきっかけにバディが新しい表現を教えてくれたこともありました。また、日本語では何気なく使っている表現が英語だと出てこないという場面にも何度も遭遇しました。例えばレストランに入って「2 名です。」をどう表現するか？友達とパンを買って、2 人で分けたいので半分に切ってほしいときにどのようにお願いするか？これに関しては、現地の人同士がどのようにコミュニケーションをとっているかをよく見るようにしていました。特にお店などで店員さんとお客さんがどのような会話をしているかはよく観察するようにしていました。日本でもロールプレイなどの教材を使って学ぶことはできますが、せっかくなので現地の人がどんな表現をつかっているかを分析し、自分が注文するときには積極的に使うようにしていました。大学周辺のお店の方は優しいので、このように言うといいよと教えてくれることもありました。英語力に関しては、うまく話せた場面もありましたがまだまだ不十分と感じる場面が多くありました。現地では、子どものように周りから何でも吸収しようとする姿勢が大事だと感じました。もう一つ、これは英語力とは直接関係ないことですが、研修中は「相手とどのように良い関係性を築いていくか？」について考えさせられました。ありがたいことに私の周囲はつたない英語であっても理解しようとしてくれる人がほとんどで、私自身も相手が作ってくれるその温かい雰囲気のおかげで自分を出せているというのを強く感じていました。ただこれから先、多様な背景を持つ人々とともに課題に向き合うにあたって、相手の包容力に依存するばかりではいけないとも感じました。どうすれば自分から相手と良い関係を作っていけるのか？今後もその方法を模索したいと思います。

ここからは特に自分が感じた内面の変化について書きたいと思います。私自身、現地での経験を通して、人との出会いやご縁により深く感謝するようになったと感じています。技術の進歩により、日本にいながら世界中の人とつながれる世の中になりました。実際に私もオンライン英会話で様々な国の人と話す中で、親しくなった人たちとは実際に会うことは難しいものの、心のつながりを感じたこともあります。しかし現地で過ごす中で、実際に同じ空間で時間を共有することで得られる心のつながりの強さにはかなうものはないと実感しました。同じ食べ物を食べて「おいしいね」と言ったり、冗談を言い合ったりする経験はオンラインでは得られないものでした。人との出会いや関係性にはさまざまなものがあると思います。周囲の人との関係性を考えた時に、何となくよく顔をあわせるものの、話をしたことはないという人もいれば、ものすごく気があって親しい友人になる人、反対に相性がよくなくても一緒に何かに取り組まな

くてはならない関係性の人もいると思います。いろいろな関係性があるとは思いますが、世の中の全員と知り合うことは残念ながら不可能です。ましてやお互いを認識し、共に時間を過ごす関係性になれる人と出会う確率というのは奇跡に近いものがあるのではないかと感じます。このような奇跡を、自分が生まれ育った日本という国だけではなく、アメリカという遠く離れた場所でも経験できたことは自分にとって一生ものの、大きな財産だと感じています。

最後になりますが、プログラムに参加すること相談した際に快く承諾して送り出してくださった研究室の先生、応援してくれた家族や友人、現地で出会ったたくさんの人、研修期間をともに過ごしたメンバー、このプログラムに関わってくださったすべての人に心から感謝申し上げます。

「行ってみないと得られない経験」

川崎優衣

私がこのプログラムに参加しようと思った動機は、本留学を通して異文化を肌で感じ、日本では経験できない生活や文化に直接触れて自分の視野を広げたいと思ったからである。さらに、将来英語に係わる仕事に就きたいと考えており、今回のプログラムを通して自分の言語能力を高めたいと思い、参加を決意した。本稿では、約 3 週間のアメリカでの生活を通して受けた刺激や学び、そして今後の展望について述べたいと思う。

私は本留学が初めての海外であったこともあり毎日多くの刺激を受けた。まず、アメリカの人は自分が思っていた以上にとにかくフレンドリーだということである。私は日常で何度もこのことを実感した。例えば、現地でできた友達と大学内で会ったときは、毎回、“Hi, Yui!! How are you?”と大きな握手とともに話しかけてくれたり、スーパーなどに行くと全員がまるで知り合いかのように話をしたりしていて、最初はとても不思議な気持ちになった。加えて、アメリカの人はとても自由で個性豊かだと感じた場面も多くあった。コーラスを聞きに行った際には、鑑賞を座って楽しむ日本のスタイルとは異なり、観客の人が歌に合わせて自由に手を叩いたり身体を動かしながら踊ったりしていて、文化の違いに驚きとても魅力を感じた。さらに日本との違いを大きく感じたのは映画館に行った時のことで、日本だと上映中はとても静かだけど、アメリカでは途中で一気に笑いが起こったりしていて感情が全部表に出ている感じがとても面白く新鮮に感じた。

次に、授業中に受けた刺激について述べる。授業はオールイングリッシュで、グループワークやプレゼン、テストなどがあった。授業内で私が感じたのは、先生との距離が近いということである。日本だと先生対生徒という分かれた講義形式が一般的であるが、先生が

授業の一員のようであったため、質問がしやすい環境でとてもいいなと感じた。さらに、最も衝撃的だったのは、授業中、飲食自由なクラスがあり日本では考えられない光景にとても驚いた。私自身も授業中にジェラートアイスを食べるなどして楽しむことができた。

次に、本留学を通した学びについて大きく3点述べる。1つ目は、「コミュニケーションを取ろうとする姿勢の大切さ」についてである。私は実際にネイティブの人と英語で会話できるのかという不安が少しあった。しかし、実際は私の拙い英語も現地の人はくみ取って話をしてくれたり、単語やジェスチャーなどで伝わる場面もあり、何より一生懸命伝えようとする気持ちが大事だと何度も実感した。また、積極的に話す姿勢も大切だと学び、現地の人に自ら進んで話しかけたり連絡先を交換したり写真を撮ってもらったりなどして交友関係を広げることができた。これらの経験から言語の違いがあっても、コミュニケーションを取ろうとする姿勢とアクティブな気持ちが断然大切なんだと身をもって感じることができた。

2つ目に、「スポーツの重要性」についてである。実際に私は、現地の友達と夜によくバスケをしており、私はそこで沢山の友達を作ることができた。また、プレー中のハイタッチやチームプレーなどでより絆が深まったと感じ、スポーツは言語の壁を越えて仲良くなれる重要な鍵であると強く感じた。

3つ目の学びとして、「自国の良さに気付ける」ということである。先に述べたように、私は今回が初めての海外であったため日本での生活が当たり前になっていてその良さに気付けていない部分が沢山あることに気付いた。小さなことでいうと、やはり日本の食べ物はおいしいこと、お風呂に毎日浸かれる状況がいかに有り難いかということ、そして物価が安いということである。さらに、日本のアニメや食事は本当に海外に人気なんだなということも初めて肌で感じることができた。アメリカで行った様々なお店に日本のアニメのグッズが大量に置かれていたり、現地の人に日本のおすすめの観光地や日本料理をすごい熱量で質問されたりと日本に興味を持ってくれている人が思っていた以上に多くいて、自国に誇らしさを感じた。

加えて、今回アメリカに住むキリスト教徒の日本人と仲良くなり、キリスト教の話を初めてじっくりと聞く機会があった。これまでは宗教はなんとなく怖いというイメージがあったが、初めて宗教というものが自分の中で腑に落ちたと感じ、同時に日本の、自分の宗教や神道のことについては知らない事が多いと気付かされ、まずは宗教だけに留まらず自分の国のことをもっと知ることが必要だと考えさせられるきっかけになった。様々な文化の相違を直接的に聞いたり体感したりする中で、アメリカの良さにも沢山触れ、同時に自国で当然だと思っていたことの良さにも気付くことができた。

最後に、成果と今後の展望について述べたいと思う。先にも述べたように、私はSUSAPの研修を通して、積極的にコミュニケーションを取ったり授業中に発言したりでき、友達も多く作ることができた。また、直接アメリカの文化に触れることができ、オンライン上では絶対にできない様々な経験と人とのつながりを持つことができた。

この経験を通して、「もっとアメリカに滞在したい」、「長期留学をしたい」、「他の

国にも行ってみたい」、「もっと英語が流暢に話せるようになりたい」といった沢山の「want」が生まれた。もともとは将来日本で英語に係わる仕事に就こうと思っていたが、いつかは海外で働いてみたいとも思えるようになり、確実に視野を広げられたと思う。しかし、今の自分の英語力ではまだまだ不足している部分が多く、もっと上手くコミュニケーションを取るためには何倍もの勉強量と実際に話す練習が必要だと感じた。まずは、リスニング力とスピーキング力をもう少し高めたいと感じたため、この２分野を中心に今後も継続的に勉強に取り組んでいきたいと思う。そして今後も海外留学に行ける機会があれば積極的に参加して、さらに自分の考え方の幅を広げられたらいいなと思う。

バディとアイスを食べに行った時の写真

「１か月で得た学び」

松尾亮佑

まず留学を決めた理由について話したい。思考の幅を広げたいというのが主な理由だ。これは私個人の考えだが、英語の技術を上げたいだけなのであれば、別に海外に行かずともあげることができる。海外に行かなくとも勉強次第では英語の先生になることだってできるし、極論通訳になることもできなくなはない。スピーキングもオンライン英会話講座なるものがあるため、やる気次第ではいつでも勉強することができる。しかし、海外で生活したことによる思考の変化であったり、経験値から出る新規性のある考え方や柔軟性は当たり前の話だが、生活してみないと身につかない。いくら英語を勉強しても教科書の中では100%得ることのできない何かを得るために今回 susap に応募した。　次にアメリカでの生活について話していきたい。平日は３つの種類の授業が曜日に分けられて行われており、基礎的な文法であったり英文作成、英会話授業が行われていた。各授業いろんな個性があり面白かった。授業は基本的に中学高校で習ったもの(特に文法)が多かった。日本でこの授業を受ければ１２０％寝ていたと思うが(実際英語の授業をまともにうけたことがない)先生たちの陽気な性格も相まって楽しく授業を受けることができた。次に休日に関してだがとにかくいろんな所へ行った。私たちが滞在していたフォレストグローブというところは基本的に田舎であるため大学周辺の飲食店以外はさほど楽しむところない。そのためどこか出かけるとするなら隣町のポートランドに行くのがほとんどであった。ポートランドにはバスケスタジアムや動物園、ショッピングモールもあったのでこの１か月間遊ぶことに困ることは一度もなかった。また食事に関しても平日は大学の食堂で食べることができ、ビュッフェスタイルであったため食べ物も満足して食べることができた。食事に関してはこれまで人生で食べたことがないくらいハンバーガーを食べた。アメリカはヘルシー文化が進んでいると聞

いていたので、さほどジャンキーなものは食べないのかと思っていたが、予想はものの見事に裏切られた。私はどちらかというと太りやすい体質なので時間があるときは運動をするようにしていた。(それでも少し太っていたが)　また泊まっていた寮も大学の中では一番古い寮ではあったがすごく快適だった。総じて生活で困ることはなかったように感じる。

次に経験を通して気づいたことだが、パシフィック大学の学生含めアメリカの人は基本的にみんな友好的で優しかった。警官の方も声をかけてくれたり笑顔で挨拶してくれたり、またレストランでも非常に店員のかたが非常に優しく接してくれた。日本のアルバイトなどで行うマニュアル化された挨拶はほとんどなく、会話自体を向こうの人は楽しんでるようにも思えた。私はそのような空間がすごく居心地よく感じた。またアメリカの人は自分でご機嫌を取ることがすごくうまいようにも感じた。その精神がアメリカの国民性やサービスにつながっているのかも知れない。そこも一つの学びだし自分もうまく取り入れることができれば毎日ご機嫌で入れるのかもしれない。

今後の展望としては英会話をオンラインでもいいので積極的に行っていこうと思う。以前も数回海外の人と話すという試みを行ってはいたがやはり慣れていなかったので怖い部分もあった。しかし今度は抵抗なくできると思う。また小さなことではあるが海外に興味のある人たちに経験を話していければなと思うし、お金があれば積極的に海外研修にも再度行ってみたいと思う。

オレゴン動物園にて　バディーと

「アメリカ研修を通して」

鐘ヶ江葵

私は今回のアメリカ短期留学プログラムで三週間アメリカで生活を通して、たくさんのことを学ぶことができました。

私のこのプログラムでの目標は、他文化を知り、話す力、英語力を向上させる、といったものでした。この目標を達成するために行ったことと、それを踏まえて学んだことをいくつか紹介します。

まず、私は他文化を知るために事前学習を行い、アメリカでは様々なイベントに参加しました。

事前学習では、報告会用のものも含めて、アメリカの文化やアメリカ人の人柄、習慣などを調べました。そこでアメリカでは皿を持って食事をしないことや、アジアンヘイ

トと呼ばれるアジア人に向けた差別がある、等さまざまなことを知りました。
実際にアメリカに行ってイベントに参加したり、現地の人と生活をしてみると、事前に調べていたことも実際に体験や、見ることもできましたし、逆に全然知らなかったことを知ることもできました。例えば、日本ではあまりみかけないイースターのイベントや、ダンスパーティーなどに参加したのですが、想像していたものとは違って面白かったです。また、パーティー等人目が多いところでも自分を表現したり、主張をしている場面、知らない人でも積極的に話す現地の人と混じることで、私もアメリカ人の一人になった気がしました。日本の空気をよんだり、謙虚にで人前には出ない文化とは全然違い、自由に自分を表現する楽しさや自信を持てました。
また、このようなイベントに参加した時には、積極的にいろいろな人と話すように心がけました。アメリカは多文化社会だとは知っていましたが、思っていた以上に様々な人種の人達が一緒に生活をしていました。さらに、アメリカの自己主張をしっかりとするという文化だからか、それぞれの人々がそれぞれ自分の意見や考え方をしっかりと持っていて、現地の人と話しているとき圧倒されました。そしてまた、自分はどうなんだろう、と自分自身を見つめ直すきっかけにもなりました。
また、現地での友達や店員さん、知らない人も含めてたくさん話したことで、話す力が向上したように思えます。アメリカでは、標識も説明も全て英語、話す言語も英語だったので、トラブルが起こった時、周りの人にためらいなく聞きに行かなければなりませんでした。たどたどしい英語でどのように今の状況ややりたいことを伝えようか、と考えながら話すことで、英語力はもちろん、人と話す力、度胸がついたように思えます。
これらのことから、私は今回たてた目標以上に自分自身を成長させることができました。これらのことは、日本でアメリカのことを調べたり、オンラインで現地の人と話すだけでは得られなかったものだと思います。今回学んだことをしっかりと心に刻んでこれから日本でも生かしていきたいです。

「アメリカ留学で得たこと」

黒岩夏帆

今回のアメリカ留学は私にとって非常に充実したものでした。毎日が新たな発見や学びの連続だったように感じます。留学前後での自身に起こった変化を３つ紹介します。

一つ目は、英語での会話です。私は参加した理由の一つに沢山の人と話したい、現地の友達を作りたいという目標がありました。会話のスピード感や英語の流暢さに圧倒されて言葉が上手く出てくるか若干の不安もあったのですが、実際は話せることの楽しさの方が大きかったように感じています。初めは、話したいという気持ちが先行して、単語だけで伝えたり、ジェスチャーを使ったりすることも多々ありましたが、現地の人はみんなフレンドリーで優しく、間違えても受け入れてくれるからこそもっと話したいと思うことができました。研修中にはそれぞれに手助けをしてくれるバディがいたのですが、私は食を通じて仲良くなりました。いろんなお店を巡り、お互いの食文化や好みについて話していると会話が自然に弾みました。食は、言葉や文化の違いを超えて、人々をつなぐ共通の要素だと実感しました。日本食のお店が大学付近にはいくつかあるので一緒に行ってみることはとてもおすすめです。また、授業や課外活動だけでなく、自分たちで計画した場所へ足を運ぶことも多くありました。その中でも特に思い出に残っているのはマルトノマの滝への旅です。遠くに遊びに行くときに普段はバディや現地でできた友人の車での移動が多かったのですが、この観光地には日本人だけで行きました。電車の乗り継ぎに間に合わない、工事中でバス乗り場が変わっていたというアクシデントやチケットの購入に苦労しましたが、途中で出会った地元の方々に話しかけると皆さん快く道を教えてくれました。なんとか目的地に到着できたときはとても嬉しく、達成した時の感動は忘れられません。「どこから来たの？」と聞かれることが何度かあったのですが、「日本」と答えると、訪れた県の

思い出話や、「綺麗で素敵な国だよね」、「すごく行きたい国だよ」と返してくれる人が多くさらに嬉しくなりました。どこへ行くにも、買い物をするときにお店の人が「今日一日楽しかった？」や「いい一日にしてね！」と話しかけてくれる文化が私にとって新鮮で、人と繋がりを持てたような気がしてとても好きでした。現地の人と過ごしていて印象に残っていることもあります。それはNBA観戦をした時の出来事です。現地の応援は日本以上に感情を露わにする人が沢山いて、口笛を鳴らしたり、全く知らない人同士が試合終了後に握手をしあったり、会場に一体感が感じられました。私はこのようなアメリカ人の気さくで明るい雰囲気がとても魅力に感じました。

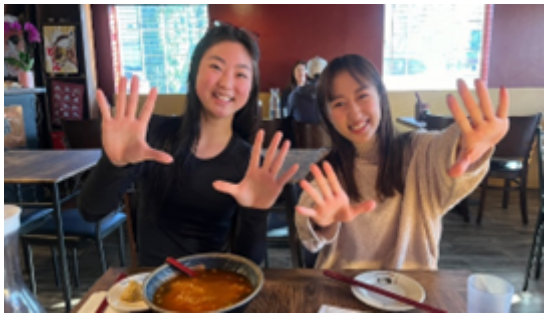
二つ目は、英語学習についてです。英語を学ぶために環境ごと変えてみるということはとても効果があったと感じています。

まず授業についてです。授業はすべて英語で行われます。ゲームを通して新しい英単語を学び、よく使う英会話フレーズを覚えました。どの授業もペアやグループワークが多く楽しみながら英語を学べました。留学中は授業や課題の他にも、異文化を学ぶ機会はたくさんあります。例えば、一緒に参加した様々なバックグラウンドを持つ大学の仲間はもちろん、他大学の留学生との出会い、現地に住む日本人との交流もありました。海外での経験や宗教観、文化の違いなど、会話を通じて英語学習をはじめとした多様な考えを知れて、沢山刺激を受けました。この3週間で視野がとても広くなったと思います。

3つ目は、時間の使い方です。留学を振り返ってみると限られた時間をいかに上手に使うかという点を特に意識していたなと感じます。毎日元々入っている授業や課外イベントに加えて、朝から早起きして新しいカフェをバディと開拓したり、早く課題を終わらせて学内のジムに行ったり、公共交通機関で近くの市街地に出かけたりととてもアクティブな日々を送っていました。このように濃い一日になったのはこれを一緒にしよう！といってくれる仲間の働きかけやバディの誘いのおかげでした。やはり、行動した分だけ現地の人と会話するチャンスが生まれるし、新しい発見もできます。この経験から日本に帰ってからも、時間を大切に使おうとする意識が強まったように感じています。研修を終えて、私がアメリカでもっとやっておけば良かったと思ったことはその日のうちに振り返る時間を作るということです。したことが盛りだくさんの毎日の中で異文化に触れた瞬間、新しい英単語が使えた瞬間、現地の人との関わりで嬉しかった瞬間が数えきれないほどありました。写真に収めるだけでなく、その都度メモや日記を書くなどして後からその時自分が感じたことを思い出せるようにすることがおすすめです。

最後に、自身の留学前と留学後の心境の変化についてです。今回初めての海外で環境の変化や食事の違いに慣れるまで時間がかかると思っていました。実際はそこまで不安を感じることはなかったです。最終日にはアメリカを離れることが寂しく感じられるほど、留学中の経験が私の心に深く刻まれました。留学中に得た貴重な経験や出会いは、私の人生において一生思い出に残

る出来事です。さらに英語力を高めて再び海外で英語力を試す機会を作りたいです。



バディと一緒にランチ

「SUSAP に参加して」

本庄由佳

私が今回 SUSAP に参加することを決めたのは、その時英語を勉強する意欲が下がっていたことと、今しかできないと直感的に思ったからです。この 25 日間の濃い日々の中で、目的としていた、英語学習のモチベーションアップに加え、多くの学び、自分自身の変化がありました。

まず、英語学習のモチベーションアップに関して、25 日間という短い期間で英語スキルを向上させることは難しいと感じたのですが、学習意欲を高めることは十分にできたと思います。バディや現地の学生と話す際に、聞き取れなかったり、理解するのに時間がかかって会話がテンポ良く進まなかったり、伝えたいことを諦めてしまったことが多々あり、悔しい思いをすることがありました。また、一緒にプログラムに参加した日本人学生と自分の英語勉強に対する意識、取り組み方の違いを知って、落ち込むこともありました。しかし、バディともっと会話をしたい！という気持ちや、日本人学生からポッドキャストや、オンライン英会話といった有益な勉強方法を教わり、これからの英語学習へのモチベーションとやる気を得ることができました。

次に学びに関して私が特に印象に残っている学びは 2 点あります。1 つ目は、人は変わらないということです。正直、留学に行く前は、アメリカの人はみんな陽気だと思っていましたが、実際は物静かで、人見知りな子もいて、住む環境が違っても大きく性格の特徴が変わるわけではないと実感することができました。また、アメリカの学生も私たちと同じように、韓国ドラマを見たり、友達と映画を見に行ったり、遊び方も日本とあまり変わらない印象でした。アメリカのドラマや映画を通して見てきた学生の様子は特別に見えていましたが、実際に目で見て、街の背景が違うだけで私たちと同じように学生生活を送っているということを実感できたと思います。これはこのプログラムに参加したことで得られた学びであったと思います。

2 つ目は、将来の選択肢は日本だけではないと気づけたことです。留学に行くまでは将来、海外で働くという考えは全くありませんでした。しかし、実際に日本から海外に来て仕事をしている日本人や、農業研修に来ている日本人と出会い、話を聞き、海外で働くこともできるのだと実感することができました。そして、このプログラムを通して、海外の人とコミュニケーションをとる楽しさや、世界の広さに感動し、自分の興味のある分野を海外で極めることもアリだと思うようになりました。また、海外と日本の橋渡しとなるような仕事にも興味を持ったため、今後自分の進む方向をしっかり考えるきっかけになりました。

最後に、このプログラムに参加したことによる自分自身の変化についてです。私はもともと消極的な性格だったのですが、今回のプログラムで、以前に比べると積極的で前向きな性格に変わることができたと思います。25 日間はとても短く、その分毎日を大事に、充実した日にしようという思いが強くあったことから、何事にも挑戦しようという積極性が生まれたのだと思います。大学の授業では、スピーキング＆リスニング、リーディング＆ライティング、グラマーの 3 つの授業を受けましたが、日本の、聞くだけの授業とは違い、生徒に積極的に考えを聞く、生徒主体の授業でした。初めは戸惑い、緊張していましたが、発表をしたらお菓子をくれる先生がいて、とても単純だとは思いますが、「授業に参加している」としっかりと感じることができ、積極的に発言できるようになりました。また、今までの自分だと、挑戦して失敗することを恐れていましたが、授業中に間違ってもそれが学びになることに気づくことができました。また、今回のプログラムでは、校内で迷子になる、マルトノマ滝に行くための 3 時間に 1 本のバスを逃す、クレジットカードを失くす、空港までのタクシーに荷物を忘れるなど他にも色々なハプニングがありました。しかし、1 つ 1 つの問題を解決するたび、「現地の人に話しかけることができた」、「英語で電話をかけることができた」、「現地の人と会話が続いた」など、少しずつ「できた」という事実が増え、自分の自信につながりました。

SUSAP を通して、案外、どんな問題もどうにかなるとわかったので、これから失敗を恐れずにさまざまなことに挑戦してみようと思います。また、自分が多様な価値観や文化に興味があるとわかったので、これからも国際交流に積極的に参加していきたいと思います。

最終日バディとご飯に行った時の写真

「アメリカ研修を通して習得したもの」

尾仲美香

私はアメリカ研修を通して、英語を話す度胸をつけることを目的としていました。この研修に参加する際はとても悩みました。しかし、思い切って応募し、この研修に参加できて本当に良かったと思います。私がこの研修を通して学んだことや習得したことをいくつか紹介します。

まずは、度胸を持つことの重要さについてです。英語で会話をする際、ミスを怖がるよりも、何度もトライして相手に伝えようとすることが大事だと感じました。実際、私も、初めの方は、ミスが怖くて会話が全然続

きませんでした。この研修を通して自分自身、積極になったし、度胸もつけることが出来ました。現地の人は、みんな優しく、ミスしても訂正してくれますし、必死にジェスチャーで伝えると、理解しようとしてくれました。また、フレンドリーな方が多いので、声をかけると笑顔で話してくれます。自分から声をかけることはとても勇気が入りますが、いい経験になりますし、得られるものは大きいと思います。

次に、アメリカで感じた多様性について話します。大学内には、様々な国の系統の人々がいて驚きました。街中にもアジア系やヨーロッパ系、アフリカ系など様々な人々がいました。授業で移民について学ぶ機会があり、現地の人々に「If any of their family members immigrated to the United States? If so, when? from where? 」 を聞いて回りました。すると、かなりの割合で家族が移民である人が多いことがわかり、驚きました。

他にも、ほとんどのお店に vegan 向けの食事や gluten free の物があり、様々な人々に対応した取り組みに感動しました。

この研修を通して英語が話せるようになったわけではありませんが、リスニング力は少し上ったのではないかと思います。そして何よりも、英語勉強に対するモチベーション向上になりました。現地で沢山の友達ができ、会話する中で、もっと自分の気持ちをうまく伝えたい、楽しい会話をもっとしたいと強く思うようになりました。私のバディは日本語を勉強している方だったので、お互い教え合いをしていました。今後も連絡をし合い、お互いに言語学習を頑張ろうと思います。

思い出

最後に、アメリカでの思い出を紹介しようと思います。新しいことばかりで、毎日が本当に楽しかったのですが、特に思い出に残っているのは、パンケーキのお店に訪れた時のフレンドリーな店員さんです。笑顔で話しかけてくれ、ネイルや髪色の話で盛り上がり、英語での会話を楽しみました。会計の時には＄８のパンケーキを＄６にしてくれて、アメリカ楽しんでね！言ってくれました。

また、現地の友達とも、沢山の観光地やお店に行きました。

これは動物園に行った日です。現地の人は動物が好きな人が多いように感じました。私も動物が大好きで、動物園に絶対行きた

いと思っていました。よく現地の人と自分のペットの話で盛り上がっていました。なので、動物園に連れて行ってあげると言ってくれた時、とても喜びました。日本で見ることが出来ない動物も多く、本当に感動しました。
アメリカ研修を通して、日本では出来ない体験をすることが出来ました。参加して、後悔は何一つありません！迷っているなら、参加するべきだと思います。一生の経験になると思いますし、日本とは異なる文化に触れて、日本の良さやアメリカの良さについての理解が深まると思います。また、私は、現地の人々に影響されて、以前より自己主張ができるようになったし、自己肯定感が上がった気がします。英語を勉強するのも楽しいと思うようになりました。自分の研修の目標も達成できたと思います。今後は、この経験を活かして、何事にも積極的に頑張って行きたいと思います。特に英語に関しては前以上に力を入れて頑張ろうと思います。

「海外研修を終えて」

古市理彩

私の参加目的は日本以外の場所でその地の文化、考え方に触れ、現地の人達と交流することで自分の視野を広げることです。また、そのことが今後の進路について参考になると思い参加しました。

最初にアメリカでの経験について述べていきたいと思います。渡航前のイメージは、アメリカはプラスな面でいうと活発で明るい人が多く、マイナスな面でいうと衛生状態や治安が悪いイメージでした。この研修を通しての印象として、私はこれまで表面的な部分しか見えてなかったのだと感じました。まず、活発で明るい人が多いという点においてはほぼイメージどおりでした。しかし、それ以上に一人一人個性があり、相手に囚われず自分をもっているという印象が強かったです。個人の自由を尊重し、いい意味で無関心なところがあるので、他人の目を気にせずのびのびと過ごせていました。私にはその空気感がとても心地よく感じました。さらに、フレンドリーで親切な人が多いと感じました。買い物の時など、日本での形式ばったやり取りだけではなく、自然発生的な会話が多いことや、後ろに人がいるとドアを開けておいてくれる、横断歩道では車がすぐに止まってくれるなど、サービスではない自然な親切が習慣になっていると感じました。衛生面や治安については、日本よりはやはり悪かったです。トイレはドアに隙間があったり、テッシュが散乱していたりとあまり良いとは言えないものでした。大学付近の町やポートランドの中心部はきれいでしたが、バスや電車は日本に比べるとあまりきれいではなかったです。ですが、町において清潔度は日本ととても大きな差はないと感じました。治安に関しては、やはりホームレスが多いという印象でした。町中を普通に歩いていたり、道で寝込んでいたりする人が多かったです。中には何か叫びながら歩いている人もいてそこは少し非日常的であると感じました。さらに、銃を売っている店が大学の近くにあったり、オレゴン州は大麻が合法の州なので交通機関やポートランドでは所々で独特なにおいが漂っていたりしました。明らかに日本とは違う環

境でそこが一番慣れにくい点でした。しかし、日常的な軽犯罪は思っていたよりは少ないのかなと感じました。スリなどが多いイメージだったので一回目のポートランドでは常に警戒していましたが、当たり前だけど人々は普通に生活しており、ただ犯罪を行う人が日本より多いだけで、日本と変わらないと感じました。日本がとても安全であることには変わりないですが、日本は安全であると日常的に聞きすぎて、海外はとても危険で恐ろしいと渡航前は考えすぎていた気がします。

次に語学研修を通して学んだことについて述べていきたいと思います。先ほども述べましたがバディーや現地の人たちと話しているとやはり他人に縛られることなく自由に生きていると感じました。私のバディーは四年生で卒論を書かないといけなかったり，コーラスサークルに所属しており，コンサートで歌ったり，バンドをやったり，Japanese 専攻なのにグラフィック系の専攻の人たちに混じって演劇をやったりととても忙しい人でした。バディーに忙しくないの，つらくないのと聞いたら「とても忙しいよでも楽しいし、やりたいことだからやっているんだよ。人生は一度しかないからやりたいことをやらなきゃ損だよ」と言われたのが心に残っています。自分のこれまでを振り返ると私は時間をとても無駄にしていました。特に大学生が 1 番時間を自由に使えるのにもっと色々なことに挑戦すれば良かったと後悔すると同時に、これからもっと挑戦して行こうと思いました。就職や学業についても、したいこと、するべきこと、時期や条件についてももう一回考え直し、整理していこうと思いました。

最後に、この語学研修での総評について述べていきたいと思います。私はこの語学研修に参加して本当に良かったと思います。私はこの語学研修が初めての海外で応募するときもとても悩みましたし、行く直前までコミュニケーションがとれるのか、約一か月暮らしていけるのかとても不安でした。しかし、現地で生活してみると心配していたことが嘘のようにとても充実した日々でした。私は英語力がお世辞にも高いとは言えず，最初の方はすぐに文章が作れなくて単語を並べるので精一杯でしたが，バディーたちは言い終わるのを最後まで待っていてくれたり，拙い英語でも理解しようとしてくれるので，ゆっくりだったら一対一でも会話をすることができました。英語力よりも会話しようとする気持ちや積極性が必要であると感じました。このプログラムを通して私は海外と日本を比較し、視野が広がりました。今、少しでも海外に興味があり自分の進路などを迷っている人にとって、確実に新しい考え方や可能性を見つけられる場になると思います。そして私もこの経験も参考にしながら、これからのことについて真剣に考え、行動していきたいと思います。

バディーが出演していた演劇

「短期留学を終えて」

師子鹿朱梨

研修に応募して合格しなかったら海外旅行に行こう。どちらかと言えば旅行の方がいいなと思い応募してみた今回の短期留学は私の人生で最も濃い出来事になりました。幼いころから父が海外出張に行くことが多くその国で見たもの、食べたものの話をしてくれて、いつか自分の目でその景色を見たいと思っていました。高校生の時に留学プログラムに参加していましたがコロナによって現地に渡航することが出来ませんでした。そして今回の留学で父が話してくれた日本以外の国の景色をようやく自分の目で見ることができました。

実際にアメリカに行き感じたことがいくつかあります。1つ目は人々の温かさです。留学中に一番人の温かさを感じたのは大学の近くのドーナツ屋さんに行った時です。このお店で朝食をとっていた際に、店主がお店にあるボードに「ありがとうございます」と表示してくださったことです。また、帰り際に「勉強するときにぜひ利用してね」とおっしゃってくださり、優しさに感動しました。そして、道がわからず困っていると「どうしたの？」と声をかけてくださる人の多さに驚きました。このことから、日本で困っている人がいても無視してしまうが、少しでも困っていそうな人がいたら声をかけてみようと考えました。2つ目は治安の悪さです。大学のあるオレゴン州で一番都会なポートランドに買い物に行った際に車上荒らしの現場を目撃してアメリカの治安の悪さを実感しました。また、大麻が合法の州だったため、何度も様子のおかしな人を見たり、独特な香りが街を歩くとしてきたり、日本とくらべものにならないほど危険で衝撃を受けました。匂いの面で私は大麻が合法の地域に住めないと気が付けました。3つ目は多文化社会であることです。日本ではアジア系の日本人に似た人々が多く住んでいる印象を受けますが、アメリカではアジア系の人々の他にも様々な人種の人々が生活していて、多文化社会であることを感じました。また、様々な人種の人々が生活しているため、多くの国のレストランがあり、その点でも日本とは異なる多文化社会を実感できました。

日本以外の国の景色を自分の目で見ること以外に、留学するにあたって目標を掲げていました。それは英語力の向上です。特にスピーキング力が四技能の中で一番劣っているのでその力を伸ばすことが今回の留学での一番の目標でした。それには現地の方々と積極的にコミュケーションをとることがよいと考えました。しかし、いざ現地

につくと積極的になれず日本人とばかり会話をしていました。そんな時に、大学のイベントで学長と学長のパートナーとお会いする機会がありました。そのイベントで学長のパートナーが話しかけてくださいました。ですが、会話に出てくる単語が難しかったり、自分が話したいことが文章で思いつかなかったりとうまく会話ができませんでした。するとその方が、もっとネイティブとコミュニケーションをとることでスピーキング力をあげられること、発音をよくするためにネイティブの発音の真似をすることなど英語力の向上方法を教えてくれました。その日から多くの人とコミュニケーションをとれるようになりました。それまでは飲食店やスーパーで会話をすることでさえ抵抗がありましたが、片言ではありましたがコミュニケーションをとれるようになりました。また、私の班の目標が留学前後で英語能力を測るテストを受け、CEFRレベルを上げることでした。私はスピーキング力を測るテストを受けました。留学の前後でレベルをあげることが出来ましたが、もう少し早く積極的になれていればもっと高いレベルまで上げることが出来たと考えると悔しいです。

最後に今回の研修を通して、自分自身を成長させることが出来たと考えます。それは、物を盗まれないように身の周りに注意を払うことを意識出来るようになったことです。留学に行く前は、スマホや財布などの貴重品をスーパーマーケットや飲食店に置いて帰ってしまうことが多くありました。しかし、アメリカで同じことをしてしまったらもう戻ってくることはないと聞いていたので、移動する際は毎回自分の持ち物の確認をしていたら、日本に帰国してからも意識できるようになり、貴重品を置いてくることがなくなりました。

今回の短期留学を終えて自分の英語力の低さを実感し、もっと勉強しなくてはならないと考えました。スピーキング力だけでなく単語力も伸ばすことで様々な会話ができるので、その二つの力を伸ばすことを中心に熱心に学習に取り組みたいです。また、実際に日本以外の国をみることができて、とても楽しかったのでこれからは留学ではなく旅行になってしまうができるだけ多くの国に足を運び、多くの国の景色を見たいと思います。

「自身の糧となった留学」

近藤希美

私がこの留学を決めた理由としては、英語力の向上だけではなく、異文化に触れ、

実際に生活をするという経験を積みたいと感じたからである。まず、今回の経験での気づきを以下に記したいと思う。

一つ目として、お金の支払い方に最初は戸惑った。日本では現金払いが主であり、キャッシュレス払いであっても一度店員さんにクレジットカードを渡したり、アプリなどをレジにかざしたりすればそこで会計が完結するというシステムであるが、アメリカは少し異なっていた。キッチンカーを含むほぼ全ての場所でキャッシュレス支払いが導入されており、チップ支払いも当たり前のようであった。クレジットカード支払いの際はいつチップを払うかが分からず、クレジットカードでも現金でもチップを払ってしまっていたこともある。チップの額にも各店で違いがあるなど、数々の気づきがあった。

二つ目として、食文化に関しても感じた。まず、提供される量の多さにも驚きがあった。また、食事マナーでも違いを見受けられた。大学の食堂でラーメンが用意されていたことがあったが、現地の学生は皆フォークを使い、麺をすすることなく、まるでパスタのように食べていた。他にも、日本人は箸を持たない方の手はお皿に添えているか、机上にあげているのがマナーであるが、アメリカでは膝の上にあった。私は知らなかった時はマナー違反なのではと捉えてしまったが、アメリカでは私たちの方がそのマナー違反に当てはまることがあると知り、改めて無知ではよくないと感じた。

三つ目は人種に関することである。授業で課題が出たため、バディに「あなたの家族に移民はいるかどうか」と尋ねた。日本ではこのような質問は失礼にあたるのではないかと考えていたが、尋ねるとすぐに答えてくれた。「人種のサラダボウル」と言われるように移民が多い国であるので、あまり気に留めないようだった。日本では周りを見渡すとほぼ日本人しかいない、ということが当たり前であるため、日本という国は人種的に見ると閉鎖的な国であると感じた。

四つ目に、アメリカの制度に関してである。オレゴン州では大麻が合法であったため、昼間の路上でも吸っている人を多く見かけた。かなり匂いがきつかったことを覚えている。また、アメリカでは銃の所持が合法であるため、大学周辺の店にも銃を販売している店が見受けられた。私はNBAの観戦に行ったが、まるで入国審査のような金属検出器による検査などがあった。この理由としては銃の所持が合法ということが理由であるのではないかと考えられた。

バディとの写真

次に、私が得ることができたことや成果を述べたいと思う。私は海外へ行くこと自体が初めてのことであり、英語力も高くコミュニケーション能力も備わっているとは思

えなかったため、留学に対して楽しみと共に不安も大きかった。しかし、現地に行ってみるとパシフィック大学の職員の方々や学生たちが快く歓迎してくださり、会話でも英語が上手く話せているかは分からないがあまり緊張感なく話すことができた。また、授業中でも日本では自ら発言をすることはあまり行っていなかったが、少しだけではあるが挙手をしてみたり、発言をすることができ、英語が間違ってもいいのでとりあえず話してみようとする向上心を得ることができたと考える。また、私のバディは、初めて対面で会話した時は「私はシャイだから上手く話せないかも」と言われ、どのようにコミュニケーションをとればよいかとても悩んだが、多くの話題をふったり、会っていないときでも SNS のチャットを使って自分から積極的にコンタクトをとることで、初対面の時よりも親密な関係を築くことができた（写真)。

また、私は一度だけだが一人で買い物に行った際にその店の店員さんに恐らくアジアンヘイトのような対応をされた。その時、周りに友達もいなかったため、自分一人で対応するしかないと思い、相手の英語はとても聞き取りにくかったが相手の言葉に返答を試み、対応することができた。この経験で英語を話す度胸は大きくついたと考える。

今回の留学を通して、アメリカと日本の様々な違いを理解したり、英語の勉強に関するモチベーションは上がったと考えるが、同時に日本に関しても改めて見直すことができたと考える。日本だけに目を向けるのではなくもっと視野を広げていきたいと感じた。そのためにも、また海外留学に参加したいと感じた。実現のためにこれから語学の勉強や、スピーキング力を高めたいと感じ、同じ学部コースにいる留学生と会話してみたり大学が毎月チケットを配布している英会話ラウンジにも参加してみよと思う。

「SUSAP 研修を通して得た学びと私の成長」

鹿江陽菜

私は中学 1 年生まで英語が苦手でした。単語や文法を覚える作業に追われ、授業が教科書通りに進むだけのようにしか感じられなかったからです。しかし、2 年生の時ある先生と出会い、英語に興味を持つようになったことで、その時から、私は将来英語教員になり、児童生徒に英語を学ぶ楽しさを伝えたいという思いを強く抱くようになりました。この留学プログラムに参加を決めた理由も、将来教員になった際に、自分の留学経験を活かして授業を豊かにすることができると考えたからです。児童生徒に自分の経験や写真を通じて異文化や英語への興味を引き出す授業作りをするのが私の夢です。それに加え、実際に海外に行って自分の英語力を試し、様々な文化や価値観に触れ、自分の視野を広げたいという思いもありました。そして今、約 3 週間の留学を終え、現在の英語力では通用しないことや、他国についてだけでなく自国のことにも無知であることに気づくこともできました。

自分の英語力については、アメリカに来て 2 日目のバディとの顔合わせで、一緒に夕食を食べる機会がありましたが、バディの

言葉を聞き取ることがとても難しく、私の発音が相手に伝わらないことも多かったため、自分の英語力が通用しないことを痛感し、ショックを受けました。また、留学初日は、日常会話や英語での授業、買い物などで何を言われているのか分からず、また、言いたいことがうまく伝えられない困難に直面しました。しかし、日が経つにつれ、だんだんと周囲の人や先生が話している内容が理解できるようになり、私自身も少しずつ自分の言葉で相手に伝えることができ、授業に積極的に参加できるようになりました。そして、相手が言いたいことを理解できた時や、自分の意思がうまく伝わった時に、「会話」というものが生まれることを実感し、本当に嬉しい気持ちになりました。だからこそ、これからもっと自分の英語力を向上させ、自信を持つよう努めたいと強く感じることができました。

また、留学中、外国の友人との会話の中で、アメリカの伝統文化や有名な食べ物、観光について質問する機会がありました。その際、同様に、彼らからも日本について質問される場面がありました。質問に答える際、私が日本について知らないことが多いことにも気付きました。例えば、日本の伝統的な行事や文化に関する質問を受けた際に、有名な行事や祭りの名前を教えることはできましたが、その意義や行われる方法について詳しく説明することができず、困惑してしまいました。この経験は私にとって大きな衝撃であり、さらに自国について学ぶ必要性を感じることにつながりました。

アメリカでの生活では、日本の良いところについて多く気づいたところもあります。

まず、日本では公共施設や公共物が非常に清潔で整備されていることに気づくことができました。アメリカでは、ゴミが散らかり、公園の遊具は壊れたままで、トイレは汚れが目立つなど、日本では見かけないような光景を目にし、改めて、日本の清潔さや機能性の高さに感心しました。また、日本の仕事の丁寧さも感じることができました。アメリカでは商品が適当に置かれ、補充がされていないお店をよく見かけましたが、これは日本では考えられない光景でした。また、アメリカでは電車やバスを頻繁に利用しましたが、時間通りに来ることはほとんどありませんでした。日本では、バスや電車の時間はほとんど守られ、遅れた場合には適切なアナウンスがあります。日本人は仕事に対し、責任感を持っていることを改めて感じました。これらの経験を通じて、日本の綺麗さや仕事の質の高さについて再認識することができました。

でも、日本の良さだけでなく、もちろんアメリカの良い点にも多く気づきました。1番素敵だと感じたのは、アメリカ人の交流方法です。日本に比べるとアメリカ人は本当に気さくでフレンドリーな人が多いと感じました。例えば、店員さんがレジの時に「どこから来たの？」と話しかけてくれて、アメリカのことを教えてくれたり、日本人だと分かると簡単な日本語を使って会話を続けてくれました。日本ではあまり経験できないような人と人との距離感を感じ、少し驚いたことも事実です。しかし、いつも笑顔で会話をしてくれたり、目が合

うとニコッと挨拶をしてくれる人達ばかりで、アメリカは本当に素敵な国だと思いました。私自身、留学中多くの外国の方に助けてもらったので、私も日本で困っている外国の方がいたら、自分から声をかけて何か手助けをしたいと強く感じました。
また、アメリカには様々な人種の方がいて、多様な文化が多く存在していました。そのため、アメリカでは様々な国の文化を見たり、触れたりすることが出来ます。アメリカは日本よりもはるかに多様性を受け入れ共存しているような印象で、とても魅力的な国だと思いました。このように留学を通してアメリカと日本の違いから、それぞれの良さや日本の課題となる部分についても気づくことが出来ました。
この留学を通して、私は様々な面で自己の大きな
成長を感じています。1 番は、行動力です。留学前は計画を立てることはあっても実行に移さず、新しいことへの挑戦を恐れていたことが多かった気がします。しかし、留学中は常に充実した経験を得ることを心がけ、空き時間や休日を活用して大学から離れた場所に足を運んだり、バディに声をかけて交流を深めたりしました。また、新しい環境での困難や障害に直面しても諦めず、解決のために努力することができました。こういった経験のなかで、アメリカでは、自ら行動を起こすことの重要性を学びました。また、自分の意見を持ち、伝えることができるようにもなりました。留学前は自分の意見を明確に持つことが少なく、持っていても他人の目を気にして表現できないことばかりでしたが、アメリカの個人主義的な文化や異なる意見の尊重を目にし、他者との意見の交換が衝突せずに進むことを学びました。この経験により、自らの意見を持ち、伝える自信を得ました。その他にも、英語能力や生活力など、様々な面で成長できたと感じます。
最後になりますが、この SUSAP の研修に参加して本当に良かったと心から感じています。留学前から支えてくれた方々や、留学中に出会った仲間には本当に感謝の気持ちでいっぱいです。この研修で実際に海外に行き、自分の課題に気づくことができたおかげで、これからの方向性がより明確になりました。この留学を通して得た経験やグローバルな人間関係などは、決して無駄にしてはいけないと強く思いました。これから、日々の学習や将来のキャリアプランを考える際に、この留学で学んだことをしっかりと活かし、充実した学校生活を送りたいと思います。

みんなで動物園に行った時の様子

「アメリカで感じたこと」

久世桜子

私がこのプログラムに参加したのは、漠然としてますが留学してみたいと思ったからです。海外への興味と踏み出さなければ経験できないことに挑戦してみたいと思い参

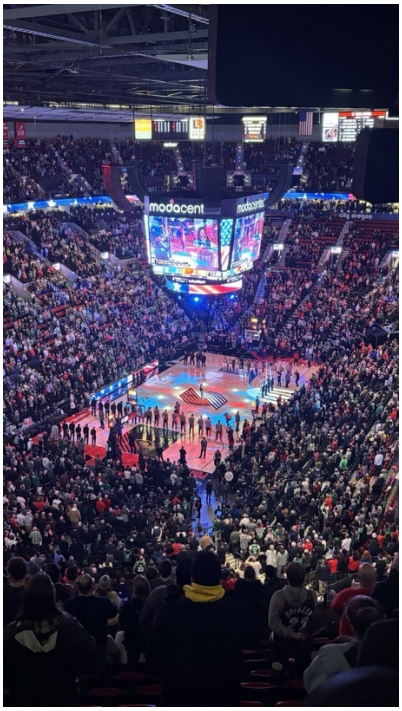
加を決めました。急な決断で周りも驚いていましたが留学に行って本当に良かったです。約 1 ヶ月間他国にいたことでもちろんその国のことも知れましたが改めて日本について客観的に見ることができました。また当たり前という概念が色々と変わり人生の経県値がかなり上がったと言えると思います。

アメリカでの生活は自分が思っていた以上に馴染みやすかったです。トイレなど公共の設備や安全面･衛生面では日本が優れていましたが特に不便は感じませんでした。たくさんの人々に出会う中で発見したことがあります。まずはフレンドリーに話しかけてくれること。飲食店や雑貨屋さんに行くと挨拶がてら少し会話をしてくれます。始めは聞き取ったりなんと返せばいいのかわからずぎこちなかったけど、少しずつ自然なコミュニケーションが取れるようになっていました。次にドアを開けて待ってくれること。たとえドアまで少し距離があっても押さえててくれるので、小走りでお礼を言いながら通過したことが何回かありました。それについて尋ねてみると、アメリカはレディーファーストの国だからドアは男性が開けるのがマナーなんだそうです。しかし性別に関係なくドアを抑えてもらったので素敵な文化だと思いました。日本人との違いは他にもありました。日本には謙遜、慎重、もっと言えば心配性な人が多いけど、アメリカ人は自信があってパワフルな感じがしました。そのような人達に囲まれていたのはとても新鮮で、私も小さなことをいちいち心配することなくありのままに過ごすことができた気がします。自分の意見もきちんと言えたし食べる量もかなり増えて完全に欧米化してました(笑)

ここからは思い出話みたいな感じで書きます。まず私たちが 1 番つらい思いをした飛行機。行きは 2 時間 9 時間 2 時間のフライトで帰りは 2 時間 11 時間 2 時間のフライトで寝れなかったり体が痛かったりいくつか不調を感じました。時差ボケが少なくなるように日本と現地の時間を見比べながら睡眠を取ったのでだいぶ楽でした。ちなみに私は日本に戻ってきた次の日にバイト行きました。留学期間中色々な場所へ行き観光がてらたくさんの経験を積んできました。NBA、Oregon Zoo、Hopscotch、映画館、マルトノマ滝、教会、レーザータグ、ボランティア、ダンスパーティー、アイススケート、イースターなど 25 日とは思えないほど濃い時間を過ごしました。特に印象に残った場所は NBA と教会と映画館です。今までバスケの試合なんてアリーナで見たことないし NBA のメンバーも誰も知らなかったけど現地の人の真似をして声を出しながら応援しました。アメリカは初対面でも簡単に馴染める良さがあります。日本では周りの目を気にして出来ないこともここでは出来てしまいました。周りの人も初対面なはずなのに点を入れたらハイタッチしていて会場の観客全員で楽しめた気持ちになりました。キリスト教徒は一般的に毎週日曜日に教会に行って礼拝を行います。行ってみると午前はお祈り、午後はご飯を食べてゲームをするといった交流の場になっていました。教会の人達はとても穏やかで私の下手な英語も真剣に聞いて話をしてくれました。日本はあまり宗教が根付いていないので異文化を感じる貴重な場でした。映画館

は日本にもありますが、座席の大きさ、クッションの質、リクライニングシート付きという超リラックスできる仕組みになっていました。心地よすぎて寝てしまわないのだろうかと思ったのが正直な感想です。あともう１つ、サマータイムを迎えたことも不思議な経験でした。

アメリカで数日過ごして、翻訳機能を使わない、バディと友達のように会話をする、という新たな目標を自分の中で決めたのですが納得する結果にはなりませんでした。頭の中で１度文を考えないと口に出せなかったためよく単語で会話をしてしまったり、公共の場では正確に伝えたいがために翻訳を使ったりしてしまいました。思うように英語を口に出すのがどれほど難しいことか改めて実感しました。家族旅行で英語を話せない悔しさを感じて少しは成長したかと期待してましたがまだまだ足りていないことを体感しました。ここで終わってしまったら私にとってただの旅行です。この経験が将来に繋がるようにまた目標を作り成長していきたいです。



参考：昼夜のミールカードがあったため現地での使用金額は約 10 万円。2.3 万円換金してたら足ります。洗濯する際は洗濯ネット必須。ルームメイトと協力すれば 2 日に１回くらい洗濯できる。ウォーターサーバーがたくさんあるのでボトル持参するべき。洗剤とスポンジは寮にない。レンチンご飯やインスタント味噌汁があったら良い。傘は折りたたみで十分。クレジットをスマホと連携してたら便利。スマホショルダーも結構便利。ジムがあるから運動着。

「挑戦したことで得られたもの」

井上元

　生まれも育ちも佐賀で、今までの人生特に変わったことを経験していなかった私は、この研修を通じて少しでも今後の大学生活や人生にとって価値のあるものを見出したいと考えていた。実際にこの研修で得たも

のは研修前の私には想像もできないほど価値のあるものであった。本稿ではその中でも特に今後の私の人生にとって大きな財産になるであろう「自己肯定感の向上」、「視野の拡大」という２つの観点について私の本研修での生活を振り返りながら記していきたい。

２月 20 日、９時間という長時間のフライトを終え、私自身初めての海外であるアメリカに上陸した。初めての海外、ここではもう日本語は通じないという現状を悟った私は当初、非常に緊張していた。その後、パシフィック大学の学生の送迎によって大学へ行き、初日を終えた。2 日目、朝になり大学の全貌に気づいた私はそのキャンパスの広さと道の複雑さに驚愕した。その後、あつこさんという日本人の現地の方によるキャンパスの施設紹介が始まった。もちろんそれだけでは覚えるのは不十分であるほどのキャンパスの広さ、複雑さであった。そのように感じた私はこの日に自分で改めてキャンパス内を一人で散歩することにした。海外の地で単独行動するというのにはこれ以上ない緊張感があった。案の定私は道に迷った。周りには日本人もいない、地図がある場所もわからない、私は大きな不安に駆られた。

私は改めてこの研修に参加した理由を考えた。今後の人生にとって価値のある体験をしたかったのだ。そこから私はふっ切れて周りの人に話しかけることにした。アメリカの人たちはとてもフレンドリーで寛容的であった。当初、英語の聞き取りに苦戦したが、パシフィック大学の生徒たちのおかげで何とか道を覚えることができるようになった。また、本研修期間、私は英語力向上や現地人の考えを学びたいと考えおり、佐賀大学や他大学の日本人の人たちとではなく、パシフィック大学の人たちや現地のアメリカ人とたくさん行動するようにしていた。

このような経験により、私はまず１つ目の「自己肯定感の向上」という財産を手に入れることができた。この自己肯定感とは英語力の向上によるものだけではないと考える。コミュニケーション能力も明らかに向上し、また、アメリカ人独特の考え方、文化についても知ることができ、後に記すが視野の拡大によってもこの自己肯定感を向上させることができた。

3 日目から本格的に授業が始まった。授業は月曜、水曜、金曜が約 2 時間の授業 1 コマ、火曜、木曜が約 3 時間の授業が 2 コマ、土曜、日曜はボランティアに参加したり各々が自由に行動したりできるといったプログラムであった。授業の時間だけで見たら日本の大学より長いと感じるかもしれないが、先生が一方的に話すといった形式ではなく、生徒同士のグループワークやペアワークが多く取られているということに気づくと同時に内容についても日本での英語の授業よりもより実践的であるということに気づいた。主な授業の内容としてはアメリカの移民や英語のスラング、プレゼンテーションでのメモの取り方についてなどである。日本の授業と違うこととして、スラングやアメリカについて学習できるような内容であった。私自身、科目は英語ではないが教育学部に所属しており、この授業形態や内容についてとても興味深く感じた。

アメリカで生活していく中で現地の友人もでき、休日には一緒にカフェに行ったり、

ショッピングに行ったりすることもできた。そのなかでバスや電車などの公共機関を使う場面があったわけだがそこでも日本との違いを複数感じることができた。特にバスを降りる合図としてボタンではなくひものようなものを引っ張るシステムには非常に驚いた。また、治安の悪さもよく目立つ。目の前で車上荒らしやスリがあったり、合法か違法かわからない薬物を使っている人がいたりするなど日本では目を配らないことにも注意しなければならないことが多数あった。授業後や休日に行ったカフェやレストランでの食事の量にも驚愕した。もともとアメリカの様々なもののサイズが大きいということは知っていたが私の予想よりもさらに大きなサイズであったのだ。

アメリカ独特の文化や考えなどを感じたのはこれだけではない。この研修の中で様々なイベントがプログラムされていたがその中にもこれらを感じたものがあった。キリスト教教会への訪問やサマータイムなどである。多くのパシフィック大学の生徒たちはキリスト教を信仰しており、周りにたくさんのキリスト教の人たちやイベントがあるという状況が非常に新鮮に感じられた。サマータイムは日本にはない制度で日中の活動時間を増やす取り組みであったが、この政策も初めて経験してとても新鮮に感じた。

この研修期間、現地で生活していく中でアメリカ独自のイベントや人々の考え、また日本との違いなどさまざまなことについ知ることができた。このような自分の知らない世界に突入し、新しいことを学ぶということは私の物事を見る視野を大きく拡大してくれたように感じる。この視野の拡大が前述のように私自身の自己肯定感を高めた。私が考えるこの研修に参加する意味もまさにそこにあるのだと思う。世の中には挑戦するのに不安を感じて挑戦をやめてしまう人たちも大勢いるだろう。しかし、今回の経験を通じて私はその不安を超える素晴らしい財産を手に入れることができた。これからも絶えず挑戦を続け、挑戦することは善であるということを証明できる人間になりたい。

帰り際に撮ったバディとの写真

「アメリカでの経験」

浦田和弥

まず、なぜ私が今回のアメリカ・パシフィック大学のプログラムに参加しようと思ったのかを説明します。私は今まで海外に一度も言ったことがなくずっと海外に行くことに憧れがありました。日本とは異なる食事、暮らし、文化などたくさんのものに

触れたいと考えていました。さらに、中学生のころから学んできた英語を日本にいると、使う機会はせいぜい英語の授業、講義の中だけであり実際に本場の英語を聞いて通じるのか試してみたいと考えていました。このような理由で今回、アメリカのプログラムに参加することを決めました。約１か月間の留学を通して得た経験や感じたことをまとめます。

まずは、大学や学校生活についてです。私が留学したパシフィック大学では多くの学生が学校に併設されている学生寮に住んでいます。私たちも同じくクラークホールと呼ばれる学生寮に滞在しました。学生寮は２人部屋で同じ佐賀大学の学生と同じ部屋でした。学生寮での生活では日本人同士ということもあり、リラックスのできる時間を過ごすことが出来ました。

授業では Grammar,Writing,Speaking の３つの授業がありました。授業の内容自体はそれほど難しいものではなかったのですが、授業中は日本語で話すことを制限され英語ばかりだったので、思ったよりも難しかったです。授業は２０人ほどの少人数クラスだったのですが、教授と学生との距離感が近く、自由な印象を受けました。一度街を歩いて周る授業中に先生が途中でピザを買って食べていたことには驚き、日本との違いを感じました。

学生生活については現地の学生とおおよそ学生１人１人にバディーが決められており、そのバディーや仲良くなった学生と多くの時間を過ごすことが出来ました。例えば夕食を一緒に食べたり、バスケをしたり、彼らの寮でビリヤードや卓球などをして遊んだりしました。現地の学生はとてもフレンドリーで見かけたら「What‘s up?」「How‘s it going?」などと話しかけてくれ、とても嬉しかったです。バディーとの会話はもちろんのことほとんどが英語だったため、何回か聞き返すようなこともあったのですが相手はわかりやすいように話してくれたりして、たくさん優しさを感じることができました。日本との違いについては、学生一人一人の学習意欲がとても高いように感じました。現地の学生はテストの有無に関わらず図書館で夜遅くまで勉強をしたり、自分の将来についてきちんと考えており、とても自立しているなと感じました。このことは自分にとって大きな刺激になりました。また、日本の大学ではほとんどが日本人で、学内でほかの国から来た学生を見ることは中々ありませんが、アメリカの学生は様々な国にルーツを持つ学生がいて人種のサラダボールと呼ばれているのを感じ、とても新鮮でした。

次に訪れた場所についてです。パシッフィック大学はアメリカの西側、オレゴン州にある大学です。中でもポートランドと呼ばれる都市が大学から近く何度も訪れました。ポートランドまではバスと路面電車を乗り継いで行くことが出来ました。ポートランドの公共交通機関はクレジットカードやカードを使って乗ることが出来ます。ポートランドではアメリカの都市の様子を見ることが出来ました。まず感じたのは町全体がおしゃれだなと感じました。都市部でも木が植えてあったり、地面がタイルだったり、建物も日本とは異なり一つ一つが個性的な形をしていました。レストランなどのお店ではレジの横にチップを入れるビンが置いてあったり、買い物を終えた後に

「Have a nice day!」と言われたりするのが印象的でした。ただ街中にはホームレスの人がいたり、ごみが多く見られたのでやはり日本とは違うのだなと感じました。
今回のプログラムに参加したことは私にとってとても大きな経験になりました。今まではテストや受験のために学習してきた英語でしたが実際に使ってみると、聞き取りづらいことがあったり、訛りによるイントネーションの違いなど、日本では経験できない英語にたくさん触れることができました。また実際に現地に行ってみることで、その国の雰囲気や文化、食事など日本にいては学んだり感じたりすることのできないことも経験することが出来ました。例えば、アメリカでは食器をもう片方の手で持ち上げたりすることはありません。さらに文化の違いについて、私は日曜日に教会でお祈りをするという体験をすることが出来ました。教会では家族みんなで朝から集まって食事を作ってみんなで食べたり、歌を歌ったり、日本では中々体験できないことをたくさん体験することが出来ました。こんな経験は実際にアメリカに行ってみないと体験できないことで今回のアメリカ研修に参加することのとても大きな意味があったと思います。
今後は自分の視野を今までより広げ、進路についてもグローバルな視点を用いて決めていきたいと思います。また、日本で出来る英会話の機会があったら積極的に参加し、アメリカで仲良くなった友達とも交流を続けていきたいと思います。

バディーとの写真

「この留学で感じたこと」

干場隆生

私がこのプログラムに参加した理由は2つあります。
1つ目は異文化を体験することです。異なる文化や価値観を体験することで日本の当たり前が当たり前じゃないと気づくことで多様性を認める力を身に着けることができると思ったからです。2つ目は日本と海外での授業の違いについて体験したいからです。

まずこの研修を通して感じたことについて話していきます。授業はgrammar、スピーキング・リスニング、ライティング・リーディングの3つを行いました。ここではそれぞれの授業を受けて感じた日本との違いについて話したいと思います。まずgrammarの授業では比較的簡単な内容でしたが英語の持つイメージについて勉強しました。助動詞が持つイメージを先生が伝え、実際に使われている本や歌の歌詞から引用し、「なぜここではこのように使うのか」をみんなで討論する話し合いの時間が多く設けられていました。そして、スピー

キング・リスニングの授業では日本語禁止で英語だけで自分の伝えたいことを伝えるという授業方式で、グループで意見を交換したり、プレゼンテーションをしたりしました。リーディング・ライティングの授業では、英語でロケーションを伝えるため実際に街に行き、英語のイメージを、活動を通して身につけるということを行っていました。これらのことから海外の授業では実際に英語を使う活動を多く設けられている印象がありました。日本では文法を座学でひたすら学ぶ体系で、英語を話す機会が少ないですが、海外の教育は自らの体を使い文法を身につける活動を行っており、私は活動で英語を使うことのほうがひたすら座学で学ぶよりも身につきやすいと感じました。

次に、実際にアメリカに生活してみて様々な場面で日本との違いを感じました。一番大きく感じた違いは、「フレンドリー」であるということです。聞こえてくる声が全て英語という場所にいるのは初めての体験だったので、初めは聞き取れるか緊張していたのですが、現地の人達はとてもフレンドリーでよく喋りかけてくれました。学校内で会ったときに「what's up」「How's going?」や「今日何するの？」など何気ない会話をたくさんしました。そして、最後の週になるにつれ、いろんな人と会話をできるようになるまで自分の英語に自信がついてきました。また、印象深いことは町を歩いているときやお店やレストランの店員さんが「How are you?」「Have a nice day！」と話しかけてくれたことです。日本ではめったに見ない光景に驚きましたが、それと同時に嬉しい気持ちになりました。また町では、ごみが少なく至るところにゴミ箱が設けられていたり、清掃活動があったりと、環境を守る活動が多かったと思います。

今までは日本と比べてのいい点について話しましたが、もちろんいいところだけではなく悪いところもあることを知る必要があると思います。自治体による取り組みのおかげで、日本ではホームレスを見かけることがあまりありませんが、アメリカではあらゆるところにホームレスがいるということです。路上に寝ている人や電車の中で寝ている人、町で何かを叫んでいる人と様々なホームレスを見ることがありました。ただこのような人々に何もしてあげないということではありません。私が行ったボランティアの一つにホームレスの人のために衣服を種類分けて、無償で提供する活動があり、支援が充実していると感じました。また、車のガラスが車上荒らしで割れていて、現地で生活するときには日本にいるときの何倍も気をつけなければいけないと感じました。このようにいい点や悪い点を現地に行ってみて気づくことができました。

今回の留学は私を大きく変えてくれたと感じます。英語力はもちろんのこと、英語に対するモチベーションの向上を図れることや、人として大きく成長することができました。相手が何を言っているのか聞き取れなかったり、いつもうまくいくとは限りませんでしたが、異文化交流を通して様々な価値観に触れ、日本の良さを再認識できたり、実際に関わってみなければわからないような現地の人の優しさを知ることができました。とても充実した時間を過ごすこ

とができて、本当に参加して良かったと思います。今回学んだことを生かして今後の生活を有意義なものにしていきたいです。

バディとの写真

「異文化の中で体感した日本との差異」

藤田和奏

私が今回このパシフィック大学のプログラムに参加した理由は、ネイティブに囲まれた環境で英語を集中的に学び、また日本とは全く異なる文化圏の国での生活を経験し、実際に日本との相違点を体感してみたいと考えたからである。SUSAP のプログラムは他にもあるが、幼い頃から人生で 1 度はアメリカに留学してみたいという思いがあったこともあり参加を決めた。アメリカでの生活は日本とは異なることばかりで驚きの連続であったが、その中でも特に記憶に残っていることをいくつか述べたいと思う。

まず 1 つ目は治安についてである。アメリカを訪れるのは今回が初めてであったため、私は日本を発つ前に下調べをしていたが、そこで見たサイトなどにはオレゴン州は全米の中でも治安の良い地域であるという記載が多くあり、少し安心していた。確かに、パシフィック大学周辺のフォレストグローブという町は郊外であることもあり、穏やかな雰囲気であったが、私たちがお土産などの買い物や NBA の試合観戦のためによく訪れたポートランドという都市では、日本との治安の違いをひしひしと感じた。街を歩いていると時々嗅いだこともないような強烈な匂いがするのだが、それは大麻の匂いだと教わった。オレゴン州では大麻が合法であるため、街中やバスや電車の車内で大麻の匂いが漂ってくることが何度もあった。また、街中で大声を上げながらふらついている人を見かけたり、目の前で車上荒らしを目撃したりした人もいたようだ。さらに、ホームレスの数も想像以上に多く、少し大通りから離れるといくつもテントが並んでいる場所もあるようだった。もちろん、日本にいても夜のひとり歩きや危険な場所には注意して避けるべきであるが、旅行者の私たちからすればポートランドでは昼間であっても常に緊張感を持たなければいけない雰囲気があり、大通り以外は絶対に通らないなど細心の注意を払いながら観光をした。ここが比較的治安の良い地域であるならば他のアメリカの地域で生活するのは私には難しいのではないかと思ったほどであった。アメリカで生活してみて初め

て日本の治安の良さのありがたみを感じることができた。

次に２つ目は社会慣習についてである。アメリカの人々が日常生活で自然にとる行動の中にも日本と異なる点が見られた。例えば、歩行者が道を渡ろうとしていたら車が必ずと言って良いほど止まってくれること、前を歩いている人がドアを後の人が通るまで開けておいてくれること、お店のレジでは店員さんが一言目には「How's going?」と調子を尋ね、最後には「Have a nice day!」と声をかけてくれること、そしてそれに対しお客さんも返答していることなどが挙げられる。これらは滞在中に自分自身が何度も目撃・体験したことである。中でも店員さんとのやり取りは馴染みがなかったため、最初の頃は戸惑ってしまいうまく答えることができなかったが、店員さんがお客さんにその日の調子を聞くことはアメリカにおいては日本で「いらっしゃいませ」と言うのと同じくらい自然に行われるものだと言うことを知り、数をこなすことでカタコトではあるが徐々に受け答えもできるようになっていった。定型的なやり取りであったとしても、お互いの調子を気にかける言葉を掛け合ったり、「良い日を過ごして！」と言い合ったりすると自然とプラスな気分になった。日本の丁寧な接客と対話が多いアメリカの接客のそれぞれに良さがあると思った。

そして 3 つ目は他者とのコミュニケーション量についてである。これは先に述べた店員とお客さんのやり取りにも通ずるのだが、アメリカは日本と比べて知らない人に話しかけるハードルが低いと感じた。実際に、スーパーやお店で私が迷っているような素振りをした場面では店員さんが「Is everything OK?」と困ってないか尋ねてくれ、スキー場で転けたときは通りすがりの人が「Are you OK?」と聞いてくれ、さらに学校の体育館でバスケをしていた際には隣のコートにいた生徒から突然「バスケが好きなの？」と話しかけてもらったことが会話のきっかけになり最終的には握手まで交わしたということもあった。もちろん積極性やフレンドリーさには個人差があり国によって一概に決まるものではないが、それでも日本であれば他人に話しかけるのを躊躇う人が多いため、アメリカでの他者との対話が溢れる生活は新鮮であった。このように、アメリカでの生活を通して、様々な日本との違いを身をもって経験することができた。

最後に、私が今回 SUSAP に参加して良かったこと、そして次に参加する方々がより有意義な研修にするためにおすすめしたいことを簡単にまとめる。私は今回の研修を通して「外国語の技能力の高さに関わらず何とか相手に伝えようとする」という意識が育ったように思う。研修に行く前に掲げていた英語力の向上は正直３週間では微々たるものであったかもしれない。しかし、英語を上手くは話せないが相手に思いが伝わるようにと乏しい語彙を捻り出して会話する状況を沢山経験したため、最初は話巣ことを恐れていたのが次第に間違えてもいいから伝わるまで話してみようという意識に変わっていった。また、これから参加する方々には滞在中は情報にアンテナを張り、興味のあることにはとりあえず挑戦してみることをオススメする。私はたまたまメディアアーツのクラブ活動の張り紙を見つけ、

スタッフの方に連絡を取ってもらうことでその活動を見学させてもらうことができた。滞在中に私たちのお世話をしてくださるスタッフの方はとても優しく、私たちがやってみたいことをできる限り叶えようと尽力してくださるため、そのチャンスを活かせるように自ら積極的に情報を集め、少し不安があっても機会があれば飛び込んでみることでより良い時間を過ごすことができるだろう。

今回のSUSAPへの参加は間違いなく私の考え方に影響を与え、今後について考えるきっかけにもなったと考えている。また機会があれば他のプログラムにも参加してみたい。

大学の体育館でバスケをする様子

「アメリカ研修を終えて気づいたこと・学んだこと」

木下平和

私が留学をしようと思ったきっかけ、約1カ月アメリカで過ごして気づいたこと・学んだこと、最後にこの研修を通して今後生かしていきたいことについて話そうと思う。

まず、初めにこの研修に参加したきっかけについて話そうと思う。そもそも、私は将来英語教師になる立場でありながらアメリカに限らず留学しようという考えがあまりなかった。理由としては主に2つある。1つは現地の人に自分の英語力が通じるかどうか不安があったこと、そしてもう1つは単純に日本の治安が一番良いと思っていたこと。2つ目の理由は僕個人的な話のため置いておくが、特に1つ目の理由は僕以外の人でも留学を考えた時に多くの人が感じることだと思う。私の場合は、英語が通じるかどうか不安でも色んな人とコミュニケーションを取ることで自分の英語力が向上する、自分自身の視野が広がるのではないか、また将来より良い英語教師を目指すためには異文化を深く理解することが大切であり、留学先での学びや経験について将来自分が受け持つ生徒に伝えることが出来ると思い、留学を決意した。

次に私が約1カ月アメリカで過ごして気づいたことや学んだことについて教育の面と文化の面の2つの観点から話そうと思う。まず、アメリカの文化で気づいたことについて話そうと思う。私はイースターのイベントに参加したり、教会にいったりしたのだが、そういったイベントでたくさんの人との交流を通してアメリカの文化は多様性や自由主義、個人の権利といった価値観が重要視されていると個人的に感じた。特に食文化については実際にパシフィック大学の周りにもイタリア料理やタイ料理、さらには日本料理など様々な国の料理を楽しむことが出来るレストランがたくさんあった。これにより私はアメリカに限らず様々な文化の一部分を体験出来たと感じ

た。また、私は比較的リスニング力には自信があると留学前は思っていたが、いざ入国審査やレストランでの注文の際にネイティブの人と話をした際に相手が何を言っているかあまりにも早くて聞き取ることも出来なかったため、自分の英語力のなさを再認識した。

教育の面についても話そうと思う。私は今回パシフィック大学で Grammer, Speaking＆listening, Writing の授業を受けた。どの授業も興味深かったが、1 番印象に残っているのは Speaking ＆ Listening の授業だ。主な授業内容としては自分のバディーなどの血筋についてインタビューをしたり、アメリカに移住してくる外国人についてグループでプレゼンをしたりする授業だった。自分のバディーの血筋を聞いた際、「母方の曾祖父母がアイルランド出身で、父方の祖父母がメキシコ出身であるため家族全員で Saint Patrics day（アイルランド共和国を祝う日）を祝う」と言っていた。また、他の人のバディーの血筋を聞いてみてもアメリカ本土出身の血だけが繋がっている人はおらず、それぞれの家族で伝統みたいなのがあったため自分の予想よりも遥かに色んな人種の人が共存している国だと感じた。また、この３つの授業では、アメリカの授業システムは日本の授業システムとは異なり、積極的に自分の意見を言うことが奨励されているため、教師と生徒が対話をしたり、グループを作ってみんなで話し合って教師の質問に答えるということが多かった。そのため、自分自身の考えを深めると同時に他の人やグループの意見を聞く機会も多く、留学を決意した理由の一つである物事をあらゆる視点から見るつまり視野を広げることが出来たのではないかと思う。

最後に私が今後生かしていきたいことを述べようと思う。

私は１年前期の授業で日本人の英語力について調べる機会があった。結果は、英語を母語としない国・地域１１１か国中約８０～９０位と下位３０％に位置していた。私はアメリカ研修を通して日本の英語教育の問題点というのはスピーキング力の低さにあることを再認識させられたし、読み書き（特に文法）を重点的に教えている日本の英語教育に違和感を覚えた。そこで、私はこの研修を通して将来教員になった際には生徒に自信を持って意見を述べたり主体的に学ぶ姿勢を育む指導、生徒同士が協力してお互いに学び合う場を創る教育の実践を目指したいと思う。また、アメリカ研修を通してアメリカの授業（英語教育）ではコミュニケーションを取ることが重要視されていたため、英語を単なる言語の習得ではなく、どう活用するかということをこれからの大学の授業で学んだり自ら考えてみたり、将来実践的な英語力を養う取り組みや授業・研修を通して得られたことを生徒に伝えていけたらと思う。

Life won't wait